

平成 30 年 12 月 21 日

園 芸 研 究 所

いばらき農業アカデミー『キク白さび病の多発要因の解明と効果的な防除法の確立』の開催

- ・平成 30 年 12 月 11 日（火）園芸研究所において、いばらき農業アカデミー「キク白さび病の多発要因の解明と効果的な防除法の確立」（第 6 回園芸研究所主要課題現地検討会）を開催しました。
- ・当日は、小ギク生産者や普及・行政等関係機関から計 95 名の出席がありました。
- ・キクの難防除病害であり、梅雨入り以降に多発生する白さび病について、本研究所で平成 27 年度から 30 年度まで取り組んだ試験結果を踏まえて、多発生する原因や品種の違いによる発病の差異、薬剤を用いた防除方法の紹介を行いました。

○試験研究成果の紹介

①現地での発生状況と品種の耐病性について

- ・白さび病の発病のしやすさ（耐病性）の品種間差について説明しました。
- ・前作の切り下株や親株での発病が、苗や本圃での発病を助長することを紹介しました。

②薬剤による効果的な防除方法について

- ・キク白さび病に登録のある薬剤の多くは高い予防効果があるものの、治療効果も高い剤は少ないことを紹介しました。
- ・耐病性の弱い品種に対しては、梅雨入り前までの予防的な防除を徹底すること、薬剤の特性を把握し時期によって適切に使い分けることなど、防除効果を向上させるために重要なポイントを説明しました。

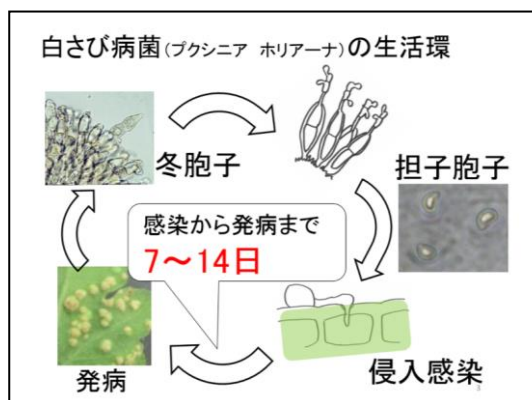
○アンケート結果

今回の農業アカデミーに対する満足度は、十分満足、概ね満足が全体の 65%でした。最も関心が高かった内容は薬剤の防除効果で、次いで効果的な防除法でした。

コメント（抜粋）

- ・初期から防除することが大切だと分かった。
 - ・耐性菌について知りたい。
 - ・親株として伏せこむ苗は、発病葉を除去しても菌を持っているのか。
 - ・現在の販売単価だと短い散布間隔で薬剤散布を行うメリットがない。
- 生産者にとって、白さび病が非常に関心の高い病害であることが分かるコメントを多く頂きました。

今後も園芸研究所では、関係機関と連携を図り、産地の期待に応えられる技術開発を目指していききたいと思います。



発表資料の一例



検討会の様子